

努力事項解説 その2 (小学校音楽)

「児童が、音楽を形づくっている要素を聴き取り、音楽のよさや美しさと結び付けて感じ取ることができるような授業の展開を構想する。」の実践のポイントを考えていきます。今回は、6年生の「物語と音楽」のポイントの続きです。

- 第6学年 題材「物語の音楽」の場合の続きです。前回と併せてみてください。この題材では、高学年の学習内容の

A表現「(3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を指導する。」の、
「イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽を作ること。」及び
B鑑賞「(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。」の、
「イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。」

を、共通事項の

「旋律」「強弱」「速度」「音色」「反復・変化」「音楽の縦と横の関係」と関連させて指導するようになります。

- (1) 『交響組曲「シェエラザード」から第1楽章「海とシンドバットの船」』のポイントここでは、

「シャーリアール王や、シェエラザード、波、海、船を表した部分の音楽を形づくっている要素（旋律、強弱、速度、音色、反復・変化、音楽の縦と横の関係等）のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構成を理解して聴くこと。

をねらいとしています。このねらいを達成するには、次のような方法が考えられます。

『ポイント その1』 ～ イメージと音楽の要素を関連付けて聴かせましょう ～

人や風景などを音楽で表す場合、直接、人や風景を音楽にすることはできません。表した人や風景のイメージを音楽にします。「海とシンドバットの船」の場合で考えてみましょう。具体的には、

- ① シャーリアール王 → 妃を迎えても翌日には処刑 → 残虐、冷酷 → 怖い
シェエラザード → おもしろい話を次々と話す不思議な力 → 不思議、妖しい

この「怖さ、不思議さ・怪しさ」を音楽で表します。

- ② 今回は、シェエラザードについて考えてみます。さて、「不思議さ・怪しさ」を音楽で表すには？ → シャーリアール王同様、音楽の要素で表します
音色 → どちらかというと合奏よりも独奏の音
強弱 → 弱々しい音（小さい音）
旋律 → 短調の旋律や、音階のない旋律
速度 → 遅い
- ③ 実際の「シェエラザードのテーマ」は、次のようになっています。

音色 → 独奏バイオリンで演奏されています。妖しくも、もの悲しいような音色です。ハープが伴奏で使われており、短調の和音をグリッサンドで演奏していて、もの悲しさを醸し出しています。

強弱 → 強弱記号は付けられていませんが、「表情豊かに感情を込めて」という表情記号（*espressivo* [伊] エスプレッシーヴォ）が付けられています。

旋律 → 全体に高い音域が使われています。三連符がたくさん使われていて同じ音型を繰り返し演奏しています。不思議、妖しい、悲しい感じがよく表れています。

速度 → *Lento* と記されています。速度標語の中ではかなり遅いテンポの指定です。

④ 実際の指導場面では、このように働きかけてみましょう。

T シェエラザードを表した旋律を聴きましたが、残酷なスルタン（王様）を飽きさせずに、次々におもしろい話をする不思議な力を持った妖しさを持つお后という雰囲気を感じが出ていると思いませんか？

C1 うーん、よくわかりませんでした。もっと聴きたいです。

T では、もう一度、使われている楽器の音色に注意して聴いてみましょう。

C2 バイオリンが一人で演奏しているように聴こえました。

C3 何か、ポロンポロンという感じで演奏している音がきこえました。悲しい感じがしました。

C4 それは、たぶんハープという楽器だと思います。地区の音楽祭で〇〇中学校で使っていました。

T そうですね。バイオリンの独奏とハープの演奏です。よくわかりましたね。では、バイオリンやハープの音色から不思議な感じや妖しい感じがしたと思いませんか？

C1 はい。バイオリンを一人で演奏している音は、とても悲しい感じの音だったと思います。

C2 はい。私は、シャーリアール王のテーマはみんなで演奏しているから大きな音だったけれど、シェエラザードのテーマは一人で演奏しているから小さい音なので、悲しい感じに聴こえたのだと思いました。

T C2くんは、シャーリアール王のテーマと比べて音色だけでなく強弱についても気がつきましたね。では、強弱や旋律や速度について、何か気付いた人はいますか？

C3 バイオリンの音は、高い音が多くて低い音はあまりなかったと思いました。それに、音が揺れているみたいに動いていたと思います。だから、不思議な感じがしたのだと思います。

C4 はい。僕もそう思います。速さはとてもゆっくりでした。速くてせかせかした感じがしないので、不思議な感じが出せたのだと思います。

T そうですね。みなさんよく聴き取りました。シャーリアール王とシェエラザードのテーマを聴いて、音色や音の強さ、旋律の動きや速度を工夫することで、恐ろしい感じや、不思議で妖しい感じを表すことができるということがわかりましたね。このことを、音楽づくりに生かすことができるのですよ。次回は、今回学習したことを生かして音楽づくりに取り組みます。

この題材では、鑑賞と表現の音楽づくりを関連させて指導するように構成されています。今まで、鑑賞の内容について考えてきました。分量が多くなりましたので、この題材の音楽づくりについては、次回で考えてみます。



今回は、6年生の実践のポイントの最後、「物語と音楽（シェエラザードのテーマの分析を生かした音楽づくり）」について考えていきます。9月6日（金）頃アップする予定です。